

外部評価における意見への対応

部局等 医学部・医学系研究科・附属病院

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：1-1</p> <p>近年、人間愛などの概念が医療系大学の理念で語られることが少なく、医学部として新鮮であり納得するところが多かった。理念から教育目的や研究目的に精神を敷衍する際に若干課題があるように感じた。</p>	<p>『医学部の理念は、アウトカムやコンピテンシーのさらに高いところで教育の骨格を支える「軸」となるものです。現在、理念のもとにアウトカムを位置づけ、コンピテンシーを設定し、さらには医学部の教育方針であるディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを作成しています。まるで木の幹から枝が分かれ葉が繁る様に、私たちの理念に含まれる「愛」、「医術」、「人」、「社会」、「健やか」というキーワードが、それぞれの具体的な意味を明らかにしながら、教育方針やカリキュラムとして結実していくのです。』このように教育へ敷衍しており、平成29年4月に発行された医学部広報誌「くずりゅう」で特集した。研究に関しても、次世代の医学・看護学を開拓する研究を推進する、“杏林愛に芳しき”医療従事者や研究者を育成、輩出し、人と社会を健やかにする事に貢献する、という精神をもち、「福井に根ざした人類知の創出のため、かつ健やかな社会創成のために、愛ある医術を含んだ研究を発展させていく」としている。</p>	<p>医学部の理念、教育目的を遂行するため、医学部として3つの方針、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を制定し、入学時より理念に含まれる「愛」、「医術」、「人」、「社会」、「健やか」というキーワードが、それぞれの具体的な意味を明らかにしながら、教育方針やカリキュラムとして結実していくような教育を行っている。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号： 1-2</p> <p>医学部としてガバナンス・コードについての考えを表記されたい。</p>	<p>福井大学ビジョンの理念に謳う「格致によりて人と社会の未来を拓く」大学となるため、深い実践的教養を備える卓越高度医療専門職業人の育成、福井に根ざした人類知の創出、世界に通じる研究の推進とイノベーション創出を医学部のミッションとする。教育活動の質や学生の学修成果等を継続的に保障し、その改善・向上を図るため、「福井大学における教育の内部質保証に関する要項」を制定し、教育内部質保証委員会を設置、モニタリング及びレビューを行う。医学部長を補佐するため適材適所に副学部長・副部門長を配置し、医学部での教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するために、企画調整会議及び教授会を定期的に開催し、重要案件を決定、遂行する。さらに、医学部附属教育支援センター、医学教育分野別認証評価、外部評価、及び附属病院運営諮問会議にてその成果の検証を行う。</p>	<p>大学法人ガバナンス・コード同様、医学部としても社会に貢献するために教育と研究の質の向上を図り成長、発展するよう組織内において、教育活動の質や学生の学修成果等を継続的に保障し、その改善・向上を図るため、「福井大学における教育の内部質保証に関する要項」を基に、教育内部質保証委員会を設置、モニタリング及びレビューを行った。また、医学部内の現状や意思決定の仕組みについて透明性を確保するため、適材適所に副学部長・副部門長を配置し、医学部での教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するために、企画調整会議及び教授会を定期的に開催し、重要案件を決定、遂行している。さらに、成果の検証については、医学部附属教育支援センター、医学教育分野別認証評価、外部評価、及び附属病院運営諮問会議にてその成果の検証を行うこととしている。</p>
<p>項目番号： 2-1</p> <p>看護学科の教員負担について教育、学部、大学院、そして社会連携等あるいは附属病院との連携等で何をやめ、何を一緒にするか等効率的かつ生産性の上がる持続可能な仕組みが必要ではないか。</p>	<p>学部・大学院教育では動画コンテンツの作成・蓄積・活用、e-learningの導入、医学科・附属病院と連携した教育活動を継続する。また、開発中のF.CESSナースの完成により、実習指導の効率化が図られると考える。社会連携では関係者と調整し、本学教員が担う活動を精選する。効率的かつ生産的な教育活動・社会連携となるよう、体制の改善と改革に取り組む。</p>	<p>遠隔授業システム F.MOCE の活用により、オンデマンド教育を取り入れた教育方法の展開、講義・実習資料公開による準備時間の削減、および F.CESS ナースの導入・活用による実習指導の効率化により、わずかではあるが教員の負担軽減につながっている。社会連携では関係機関と調整し、本学教員への依頼業務の整理を行った。今後も体制改善と改革に取り組んでいく。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：：①医学部5-3 (医学科) アウトカムコンピテンシーの達成度や学修成果を把握した上で、継続した教育プログラムの改善と改革に取り組むことが期待される。</p>	<p>令和5年度に医学教育分野別評価の受審を控えており、アウトカムコンピテンシー達成度など可視化した学修成果・教育成果に基づいて教育プログラムの改善に取り組むことは、不可欠であると考え。当該プログラム開始時の学生が令和5年度卒業であるため、卒業時及び卒業後に学修成果についての調査を実施する予定である。</p> <p>現在、医学教育分野別評価の受審に向けて、自己点検評価作業を実施しており、特に領域7「教育プログラム評価」において「部分的適合」以上の評価を受けられるように改善と改革に取り組む。</p>	<p>可視化した学修成果・教育成果に基づいた教育プログラムの改善への取り組みとして、令和4年12月7日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表含む）、令和4年12月22日に同委員会看護学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表を含む）を実施し、令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言（案）が審議、承認され、カリキュラム委員会等に諮られた。その後、令和5年3月30日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会を実施し、医学科・看護学科の令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言等の活動を報告した。学外委員からは「しっかりとした教育プログラムである」と評価された。また、令和4年度教育の質向上のための重点配分経費にて作成した「医学部教育プログラムダッシュボード」を初披露し、学外委員より「これほど細かいデータを一括管理できることは良いことである。受審予定の医学教育分野別評価も、ここまでやっているのであれば問題ないのではないか。」と評価を受けた。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：①医学部5-3</p> <p>看護学科では入学者のデータ等を見て、推薦枠の入学生は優秀でモチベーションが高いので、推薦枠を増やす等改善が認められた。</p>	<p>医学科、看護学科ともに入学者の教学 IR データを分析し、推薦枠を増やす等の改善につなげることが出来た。今後、入試・入学者受け入れ体制においても、さらなる教学 IR に基づく点検・改善により PDCA サイクルを継続的に実働する。</p>	<p>教学 IR に基づく点検・改善（入試・入学者受け入れ体制を含む）により PDCA サイクルを継続的に実働することを目的として、令和4年度教育の質向上のための重点配分経費にて「医学部教育プログラムダッシュボード」を作成した。医学部教育支援センターのカテゴリーでは、医学部の教育プログラムや医学部教学 IR データベース、令和3年度教育プログラム Check（点検・評価）& Action（改善）& Plan（計画）、FD・SD 情報などの情報を集約（全65項目）した。全学教育内部質保証のカテゴリーでは、福井大学における教育の内部質保証に関する規程や要項・ガイドラインを上部に配置し、それを基に実施した「令和3年度 プログラム・レビュー」「令和4年度 モニタリング」の情報を集約（全24項目）した。モニタリングすべき評価や指標のカテゴリーでは、医学部教育において、モニタリングすべき9つの評価や指標の一元化を進めた。（全9項目）</p>
<p>項目番号：①医学部5-6</p> <p>(医学科)</p> <p>医学部附属教育支援センターを独立した組織として評価を行うとともに、さらに教育 IR データを活用し、教育 PDCA サイクルを継続的に実働することが望まれる。</p>	<p>「学修者本位の教育」の充実に向けて、医学部附属教育支援センターを中心として教学 IR に基づく教育内部質保証体制を確立することが重要であると考えます。</p> <p>医学部附属教育支援センターの教学 IR 部門において、教育関連データの収集と分析を DX 化も含めて実施し、プログラム評価委員会等での点検・評価に基づき改善に繋げることで教育 PDCA サイクルを継続的に実働する。</p>	<p>「学修者本位の教育」の充実に向けて、医学部附属教育支援センターを中心として教学 IR に基づく教育内部質保証体制を確立する取り組みとして、令和4年12月7日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表含む）、令和4年12月22日に同委員会看護学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表を含む）を実施し、令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言（案）が審議、承認され、カリキュラム委員会等に諮られた。その後、令和5年3月30日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会を実施し、医学科・看護学科の令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言等の活動を報告した。学外委員からは「しっかりとした教育プログラムである」と評価された。また、令和4年度教育の質向上のための重点配分経費にて作成した「医学部教育プログラムダッシュボード」を初披露し、学外委員より</p>

		<p>「これほど細かいデータを一括管理できることは良いことである。受審予定の医学教育分野別評価も、ここまでやっているのであれば問題ないのではないか。」と評価を受けた。</p>
<p>項目番号：①医学部5-6</p> <p>医学部附属教育支援センター中心になって教学 IR が動き出しており、今後の発展が期待される。看護学分野においても、このようなデータに基づいたカリキュラムの開発が大きな課題になっているので、このような仕組みを使って看護学教育の発展もぜひお願いしたい。</p>	<p>看護学教育分野別評価を令和7年度に受審する意向であり、看護学分野においても、教学 IR データに基づいた教育プログラムの改善に取り組んでいくことは、必須であると考えます。令和4年度卒業生からアウトカム基盤型教育を実施した学生となるため学修成果データに基づいた教育プログラムの改善を進めることとしています。</p> <p>今後、医学科同様、医学部附属教育支援センターの教学 IR 部門において、教育関連データの収集と分析を DX 化も含めて実施し、プログラム評価委員会等での点検・評価に基づき改善に繋げることで教育 PDCA サイクルを継続的に実働する。</p>	<p>看護学分野においても、教学 IR データに基づいた教育プログラムの改善に取り組んでいくことは、必須であることから、令和4年12月7日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表含む）、令和4年12月22日に同委員会看護学科専門部会（委員に学生代表と卒業生代表を含む）を実施し、令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言（案）が審議、承認され、カリキュラム委員会等に諮られた。その後、令和5年3月30日に福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会を実施し、医学科・看護学科の令和3年度コンピテンシー達成度とアウトカム評価の分析結果と提言等の活動を報告した。学外委員からは「しっかりとした教育プログラムである」と評価された。また、令和4年度教育の質向上のための重点配分経費にて作成した「医学部教育プログラムダッシュボード」を初披露し、学外委員より「これほど細かいデータを一括管理できることは良いことである。受審予定の医学教育分野別評価も、ここまでやっているのであれば問題ないのではないか。」と評価を受けた。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：②大学院5-3</p> <p>(博士課程統合先進医学専攻)</p> <p>今後少子化に伴い大学院進学者が減少することが予想され、色々な対策を考え、定員充足や研究の質向上、教育状況の充実に当たられることが望まれる。</p>	<p>予想される少子化に伴う大学院進学者の減少についての対応策として、研究意欲のある医学科学生を対象とした大学院説明会を強化すること、医師以外の進学者への奨学金確保を進めること、外国人留学生の増加に向けて、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)等が開催する日本留学オンラインフェア等に参加して広報活動を進めること、英語版を含めた広報誌の作製を進めること等を検討する。</p> <p>また、現時点で実施している修士課程における病院訪問による学生勧誘、博士課程における医学科学生の早期履修コースへの勧誘については継続する。</p> <p>研究や教育の質向上に向けてシラバスの充実、中間発表会の充実による指導強化、論文作成に関わる費用の補助などを実施していく。</p>	<p>医学系研究科では、成績優秀で将来医学領域又は看護領域における優れた研究・実践力を有する医療人を目指し入学した社会人大学院生(医師として本務先を有する者を除く)に対し、福井大学大学院医学系研究科振興奨学金制度により支援している。令和4年度の新規申請はなかったが、令和5年度は修士課程1名博士課程1名計2名の申請があり、2名の支援を決定した。</p> <p>医学科3年次、4年次及び6年次生向けの学年主任ガイダンス内で、博士課程進学説明会を実施した。実施時期は3年次/5月、4年次/4月、6年次/4月で、学生全員が参加した。同時に、早期履修制度の紹介も実施した。早期履修制度利用実績は、令和3年度/2名、令和4年度/0名、令和5年度/1名となっている。</p> <p>優秀な外国人留学生の獲得に向けて、令和4年度より大学の英語版HPの改編を行い、本学への入学を希望する外国人留学生向けの内容を充実させた。また、東南アジア地域を中心とした医学部の協定校・交流大学にアプローチを行っており、来年度以降の外国人留学生の獲得を目指している。</p> <p>シラバスの充実は、R4年度シラバスより主に「アクティブ・ラーニングの導入状況」「到達目標」「準備学修」「成績評価方法」「成績評価基準」「教科書及び参考書」の項目について実施した。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：6-2</p> <p>研究計画と成果論文が対応付けられたデータベースを学内で構築できれば、研究進捗と方向性把握に有用であろう。各人の経時的な研究業績の指標として、研究期間を考慮したh-index（結果）と研究費実績（計画）を組み合わせるなど、データベース構築を前提とした研究の質評価自体のRA研究が望まれる。</p>	<p>各研究者の研究の質を評価し、適切かつ適格に支援する仕組みとして、研究の方向性と計画に沿った進捗状況の把握が有用であり、その際、h-index や研究費実績も併せて把握することで、より研究者一人一人に適した評価と支援が可能になると考えられる。そこで、研究テーマ、取得中の科研費と実験計画及びh-index等を含むデータベースの整備に順次取り組む。</p>	<p>現在研究活動の支援策等に関する医学部独自のホームページの作成に着手しており、そのコンテンツ作りの一環として、各研究者の研究情報の収集と開示方法に関する議論を行っている。既に、採択された科研費の研究課題名、研究期間及び受入金額についての情報は研究者毎に整理されており、今後この情報にh-index等の様々な指標を追加することで、データベースとしての利用を可能としていく。</p>
<p>項目番号：6-2</p> <p>研究の質の評価は、今日の我が国の医学研究が論文の掲載誌評価に依っている等共通の課題が内包されている。インパクトファクター以外のパラメーターの導入としては、サイテーション以外にも、大学院における研究計画書の公表評価、複数の教員による大学院生の研究指導、或いは研究費獲得とリンクした研究計画書の評価などが挙げられると思う。</p>	<p>研究の質の評価において、発表雑誌の評価であるインパクトファクターだけを用いることの不適切性及び研究振興における危険性を理解した。現在でも発表論文数や研究費獲得状況などの他の指標を併用しているが、今後はさらに被引用数やh-indexなどの他の指標も取り入れて、研究者個人や研究の多角的な質の評価に取り組む。</p>	<p>研究者の評価を行う際には、論文掲載雑誌のインパクトファクター以外に、発表論文数と科研費取得状況を評価の対象としている。被引用件数とh-indexなどの指標についてはまだ検討段階であるが、今後議論を深め、評価プロセスへの組み込みを目指す。</p> <p>大学院における指導については、インパクトファクターよりも発表する論文の数を重要視する風潮が高まっており、今後バランスを取りながら、複数の評価軸に沿って各研究者や大学院生の研究評価が行えるような仕組みを構築する。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：6-2</p> <p>医学部に従来からある医学研究推進室と附属病院に新たに設置された医学研究支援センターが相補的に機能するような工夫と配慮が挙げられる。</p>	<p>医学研究支援センター教員1名が医学研究推進室のメンバーとして常時参加することで、連携した研究支援活動が実施できる体制を整備している。これにより、研究業績表彰や研究費助成は医学研究推進室が担当し、臨床研究や医療統計解析への啓もう活動、並びに研究倫理審査は医学研究推進センターが担当するといった支援業務の分担と連携がとられている。この様な相補的な活動を今後さらに深めることで、より効率的な研究支援体制の構築に繋げる。</p>	<p>論文業績数の向上を目指した英文校正経費支援や、特に臨床系教員を対象とした「臨床研究のすすめセミナー」を開催するなど、医学部だけでなく附属病院の支援も受けて幅広い研究支援を行っている。</p>
<p>項目番号：9-1-1</p> <p>新理念「最新・最適な医療を安心と信頼の下で」だが、特に最高を最適に変更したのは患者さんの意志を尊重しており、妥当だと思う。一部指摘のあった「最新」の言葉について、何をもって、いつの時点で「最新」となるのかに関しては、今後院内で検討していただく必要がある。</p>	<p>特定機能病院として附属病院が取り組んでいる最先端医療の研究、開発、実践を念頭において最新という表現を用いている。また、患者の診療にあたる時点で、最新のガイドラインに基づく標準的治療や、当該疾患とその領域の新たな知見に関する情報等も提供し、患者の選択の可能性を担保することを念頭に理念を設定している。</p> <p>また、ご指摘のあった「最新・最適」の用語は病院の理念として用いるだけであれば、医療法における病院等の広告規制に抵触しないことを確認している。</p>	<p>理念は本来、職員向けのものであること、本理念が院内で定着しつつあることをふまえ、理念の改訂はしないものの、本理念における「最新」・「最適」という表現を広報において利用しないこととし、代わりに学内公募を経て、広報等で利用が可能なキャッチフレーズ「新しく優しい医療を あなたののもとへ」を作成し、利用している。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：9-1-2</p> <p>将来計画委員会をもっと活用することで、さらに明確な目標設定ができると思われる。今回、いただいた資料には中期目標と中期計画が明確にされていなかった。病院長のもとに設置された将来計画委員会で中期計画を年度ごとにどのように実行していくのかを検討して結果を反映させながら運営されると良いと思われるので、活用いただきたい。</p>	<p>本院の将来計画検討会では、院内委員のみならず教育・評価担当理事を加え、病院の長期目標(12年間)、中期目標・計画並びに毎年年度計画の策定検討を行っている。さらに、年度計画における目標を明確にするために毎年経営方針を策定している。また、将来計画検討会では、中期目標・計画並びに年度計画の達成状況も併せて行い、PDCAサイクルを回すようにしている。</p>	<p>令和4年12月に将来計画検討会を開催し、病院の長期目標と中期目標・中期計画の関係性を示した上で、当該年度における具体の取り組み内容とそれに対する達成状況を報告した。今後も、各年度における進捗を報告し、各委員からの意見・助言を踏まえてPDCAサイクルを回していく予定である。</p>
<p>項目番号：9-6-1</p> <p>前回の評価時にも指摘のあったことであるが、初期研修医数及び専攻医数について具体的な目標値と方策を明示して、取り組まれることを期待する。人口減少の中、大学病院は高度医療を今後も担っていく使命があり、医療人育成の責務がある。若手医師の育成をさらに進めるため具体的な方策を検討いただきたい。</p>	<p>本院の初期研修医の多くは、そのまま当院で専攻医となることから、初期研修医の獲得が専攻医を増やす上でも重要と考える。初期研修医の募集数に関して、研修プログラム毎のマッチング数の推移、学生の希望などを調査しながら、臨床教育研修センター運営委員会で目標値の設定を検討している。初期研修医数を増やす方策としては、他大学との給与を比較検討し、本年度から10%の給与アップを行った。また、初期研修医用宿舎の整備し令和5年度から入居可とする計画である。</p>	<p>初期研修医数を増やす方策としては、令和3年度から10%の給与アップを行い、専用宿舎の整備については、初期臨床研修及び看護師用宿舎として、令和5年4月から入居を開始している。現在、研修医13名、看護師11名の24名が入居しており、県外等からの研修医が宿舎を探す手間も省け、家賃補助もあるため、好評を得ている。</p> <p>専門研修医については、平成30年度から日本専門医機構の下、新専門医制度が開始され、当大学においても各専門医領域で専門研修プログラムを構築している。各領域の専門研修プログラムについても、関連施設と連携を取り、専攻医のためのプログラムを作成している。福井大学を卒業し、他施設にて初期臨床を修了し、当大学の専門研修プログラムにて研修するために、当大学に戻ってくる専攻医も増加している状況となっている。</p>

外部評価委員等からの意見等 (令和3年12月13日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>項目番号：9-6-1</p> <p>研修医及び専攻医をどのように確保するか従来からの課題であると考ええる。研修医数はむしろ減少傾向にあるようだが、最も気になる問題である。地域枠の増員などの対策はとられていると思うが、今後医師の働き方改革対応と共に、更に検討していただく必要があると考える。</p>	<p>地域枠に関しては、次年度以降も現在の増員された人数枠を継続する予定である。地域枠を更に増員した場合、学力が低い学生も入学することになり、留年の増加や、医師国家試験不合格、医師になった後の自学する力が問題となることから慎重に判断すべきだと考えている。</p> <p>附属病院で研修を行う初期研修医数は減少傾向であるが、福井県全体の初期研修医数は横ばいであるため、県内の研修病院と連携し、専攻医の研修先として附属病院を選択してもらえるよう、初期研修の段階から連携をとれるように働きかける方法を検討している。</p>	<p>初期研修及び専攻医の確保について、福井県と連携して県内の基幹病院との合同説明会を実施している。令和5年度については7月開催のレジナビ大阪への出展を初期研修と専門研修の合同企画で初めて実施する予定である。コロナ禍において、学生が地元志向になっていることから、地元へ戻る県外出身者をいかに福井県内の研修病院を選択してもらえるようにするかが重要になってくる。医学部生に初期研修先の選択段階において専門研修を見据えた進路選択として当院を選択してもらえるよう、コロナ禍で中断していた学内説明会を計画している。本説明会では当院の診療科の説明のほかに医師国家試験対策を盛り込むなど、学生の教育との連携強化にも力を入れている。</p>